

奈良県の環境の現況について

(平成 30 年度、ダイオキシン類)

ダイオキシン類対策特別措置法第 26 条の規定に基づき、平成 30 年度に県内で実施した環境中の大気、水質、土壌等のダイオキシン類の常時監視調査結果は、次のとおり全て基準値以下でした。(測定機関：国、県、奈良市)

環境媒体	地点数	年平均値の濃度範囲	環境基準
大 気	8	0.0083 ~ 0.024 (8 地点平均 0.015)	0.6
公共用水域 (水質)	7	0.016 ~ 0.87 (7 地点平均 0.23)	1
公共用水域 (底質)	7	0.036 ~ 0.50 (7 地点平均 0.22)	150
地 下 水	8	0.015 ~ 0.037 (8 地点平均 0.019)	1
土 壌	12	0.0034 ~ 0.86 (12 地点平均 0.19)	1,000

(単位) 大 気 : pg-TEQ/m³
 公共用水域(水質)、地下水 : pg-TEQ/L
 公共用水域(底質)、土 壌 : pg-TEQ/g

環境中の大気、公共用水域(水質、底質)、地下水、土壌のダイオキシン類について、調査を行った。
 その結果、大気、公共用水域(水質、底質)、地下水、土壌の全地点で環境基準を下回っていた。

[参考]

1. 全国における環境中のダイオキシン類濃度の状況 平成29年度ダイオキシン類に係る環境調査結果（平成31年3月環境省）

環境媒体	地点数	平均値	濃度範囲	環境基準
大気	629	0.019	0.0033 ~ 0.32	0.6
公共用水域 (水質)	1442	0.17	0.010 ~ 1.7	1
公共用水域 (底質)	1205	6.7	0.043 ~ 610	150
地下水	498	0.049	0.0071 ~ 0.66	1
土壌	835	3.4	0.0 ~ 150	1,000

(単位) 大気 : pg-TEQ/m³

公共用水域(水質)、地下水 : pg-TEQ/L

公共用水域(底質)、土壌 : pg-TEQ/g

2. 用語解説

- ・pg (ピコグラム)
1兆分の1グラム

- ・ダイオキシン類
 - (1) ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン
 - (2) ポリ塩化ジベンゾフラン
 - (3) コプラナーポリ塩化ビフェニル

- ・TEQ (毒性等量)
ダイオキシン類は、200種類以上の異性体があり、それぞれの毒性が異なるため、毒性の最も強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの毒性量に換算して表す単位。

- ・土壌調査における一般環境調査及び発生源周辺調査
一般環境調査：特定の発生源の影響を想定せず実施する調査。
発生源周辺調査：特定の発生源として一般廃棄物の焼却場を設定し、その周辺において実施する調査。